

第4回大牟田市まちづくり基本条例 市民検討会摘録

開催日時：平成26年4月25日（金）午後6時30分から午後9時

開催場所：市役所北別館第1会議室

出席状況：市民検討会委員14人、職員11人、ファシリテーター2名、事務局4人

傍聴者：1名

1 開会

2 事務局説明

市の人事異動に伴う事務局並びに市民検討会の新メンバー紹介及び配布資料の確認

3 前回市民検討会の振り返り等

市民検討会ニュース3号により前回のワークショップの内容のおさらいを行なった後、4/19開催のまちづくり基本条例講演会の要旨について説明を行うとともに、講演会出席者に感想を述べてもらった。

4 班分け 5班に班分け

5 課題と解決策について（ワークショップ）

（1）ワークショップ開始に当たっての伊佐会長のコメント

協働＝パートナーはまちづくり基本条例の肝となるものである。パートナーとは役割分担とともにお互いを認めあうこと。行政の方が市民より予算はあるが、市民は行政が持たない情報、コネを持っている。行政と市民がお互いに情報や知恵を寄せ合ってよりいいものを作っていこうということが協働。自治とは自ら治めることだが、いつの間にか役所頼みとなり、昨今の財政状況の悪化で行政サービスが削られあちこちで不満が高まっている。これからのまちづくりのあるべき姿は、負担している人もそうでない人も全ての人が力を合わせてまちづくりに取り組むこと。皆さん方もより良い条例を作るために、情報収集し学習しながら取り組みを進めていただきたい。

（2）ワークショップ

市民及び行政に関する課題についてその原因と解決策について各班で意見交換しその内容について発表を行なった。各班の検討内容については別紙のとおり。

- ・市民に関する課題 1班、2班、4班、5班
- ・行政に関する課題 3班

6 講評

ワークショップのまとめとして市民検討会会長の伊佐先生から以下の講評あ

った。

- ・市民に危機感がないということ、つまり市民が分かっていないということに関して、市民が分かるようになるためにまず情報が必要になる。
- ・しかしそこには情報の送り手と受けての間にギャップがあって伝わっていないという問題がある。
- ・その一因として行政の縦割り構造の問題があるが、これは自治体の財源を分配する国と地方との関係にもつながるものである。
- ・つまり、国の省庁別の縦割り構造によって、自治体の各部署で使われる専門用語も異なるし権限と予算がセットになっているといった状況がある。このため、自治体内部でも協働が進んでいないということがある。
- ・また、情報がないため役所の窓口で文句を言う市民がいるが、職員はそういったクレームの矢面に立ちたくないと思っている。
- ・これに関連して職員は地域に帰れとよく言われるが、職員は地域から役所のこと文句を言われることを怖いと感じている。
- ・なぜなら職員が地域の人間としてではなく役所の人間として見られているからで、そういった問題を解決するためには、地域が相手（役所の職員）を理解することが必要になってくる。
- ・特に最近の若者は体験が少ないため、怒ると逃げる傾向が強い。また、役所には失敗できないという文化がある。このため、失敗しても怒らずにほめる地域を目指すことも大事になる。これがお互いを知ることにつながる。
- ・プロボノ（世間の善いことのために）というラテン語がある。民間も役所も無償で専門知識を提供することで、大牟田市でもNPOが市役所職員の私的な面でのノウハウを活用するなどの協力を得て資金をゲットしたという事例がある。
- ・こういったそれぞれの良さを生かした活動が全国で広がりを見せているが、一部ではみんな忙し過ぎて不満の声も聞かれることもある。
- ・こうした活動を成功させる秘訣は集まって楽しい雰囲気と少しの達成感にある。仕事を離れたところで地域に貢献することで感謝されることから生まれる達成感がそこにはある。
- ・こういった取り組みをまちづくりの際に取り組んでもらい、あわせてその仕組みづくりについても考えてもらいたい。
- ・また、失敗しても文句をいわれないが、成功したら評価してもらえらる仕組みづくりも大事になってくる。
- ・最後に情報発信において市民と行政の間にズレがあるといった点について、透明性高い仕組みが必要であり、また、行政職員が地域に入り地域のためにやってくれる素地作りも必要となってくる。

7 事務局連絡

- ・次回市民検討会について

開催日時：平成26年5月27日（火）18時30分から

開催場所：市役所北別館第1回会議室